

顕現後第6主日 ルカ6章17―26節

〔直訳〕

- 17 そして 下って 彼らと一緒に 彼は立った 平らな場所の上に、
そして 彼の弟子たちの大きな集団が そして 民の大きな群れが
ユダヤ全体とエルサレムとティルスやシドンの海岸から、
- 18 ところの 来た 聞くために 彼に そして 癒されるために 彼らの病気から。
そして 汚れた霊たちによって苦しめられている者たちは 直されていた、
- 19 そして 全群衆は 探していた 触れることを 彼に、
というのは 力が 彼から 出ていた そして 彼は癒していた すべての者を。

20 そして 彼は 彼の目を上げて 彼の弟子たちの中へ
言っていた、

「幸い、貧しい者たちは、
というのは あなたがたのもので ある 神の支配は。
21 幸い、飢えている者たちは 今、
というのは あなたがたは満足させられるだろう。
幸い、泣いている者たちは 今、
というのは あなたがたは笑うだろう。」

22 幸いで あなたがたはある
ときは 人々があなたがたを憎む

そしてときは あなたがたを彼らが隔てる そして 彼らが非難する
そして 彼らが投げ出す あなたがたの名前を
悪いもののように 人の子のために。

23 あなたがたは喜びなさい その日において
そして あなたがたは跳ねなさい、
なぜなら見よ あなたがたの報いは 多い 天において。

なぜなら同じように おこなっていた 預言者たちに 彼らの先祖たちは。

24 しかし ああ不幸 あなたがたに 金持ちたちに、
というのは あなたがたは十分に受け取っている あなたがたの慰めを。

25 ああ不幸 あなたがたに、 満たされている者たちは 今、
というのは あなたがたは飢えるだろう。

ああ不幸 笑っている者たちは 今、
というのは あなたがたは嘆くだろう。そして あなたがたは泣くだろう。

26 ああ不幸
ときは あなたがたを よく 言う すべての 人々が。
なぜなら同じように おこなっていた 偽預言者たちに 彼らの先祖たちは。

〔新共同訳〕

17 イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびただしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、18 イエスの教えを聞くため、また病気をいやしていただくために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々もいやしていただいた。19 群衆は皆、何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべての人の病気をいやしていたからである。

20 さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。

「貧しい人々は、幸いである、

神の国はあなたがたのものである。

21 今飢えている人々は、幸いである、

あなたがたは満たされる。

今泣いている人々は、幸いである、

あなたがたは笑うようになる。

22 人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、のしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。23 その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。

24 しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、

あなたがたはもう慰めを受けている。

25 今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、

あなたがたは飢えるようになる。

今笑っている人々は、不幸である、

あなたがたは悲しみ泣くようになる。

26 すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

①構成

① 17—19節

マタイ5章3節以下では「山」で語られた「幸いの言葉」が、ルカでは「平らな場所」で語られる。しかも、ルカでは「さらに」大きな弟子たちの集団「や」民の大きな群れ「も」イエスのもとに集まっている。

② 20—23節と24—26節

③ この二つの小段落は、明らかに同じ構成を持っている。まず「幸い」の言葉では次のようになる。

幸い……

……幸いのは…（現在形の動詞）

幸い……今

……幸いのは…（未来形の動詞）

幸い……今

というのは… (未来形の動詞)

幸い

ときは…人々が

……

なぜなら同じように……。

① 24節以下の「不幸」の言葉でも、点線で示したように、同じ構成がとられている。しかし、22節の三行目から23節の三行目にかけては、「不幸」の言葉に対応する箇所がない。キリストを信じる者への憎しみは、「隔て、非難し、投げ出す」ことにまで広がるが、しかし、そうであればあるほど、喜びの日はいつそう近くなる。いずれにしても、「幸い」と「不幸」の言葉を同じ構成で書くことよって、立場が逆転する日の接近を強調しようとしている。

② 弟子と民 (17—19節)

① 弟子と一緒に山から下って、「平らな場所」に立つと、山で一緒に祈った弟子のほかに、さらに広い「弟子」の集団と「民」の群れがイエスのもとに集まる。ルカでの「民」は神の言葉を受け入れる準備の整った人々を指すことがある。ここでの「民」はそのような民であろう。

③ 幸いな人々 (20—23節)

① イエスは「彼の弟子たちの中へ」目を上げて、語り始める。ここでの「弟子」には、山から下ったイエスのもとに集まった「弟子」や「民」が含まれている。

② マタイの「山上の説教」とは違って、イエスは「あなたがた」に向けて語りかけており、親しみを込めた呼びかけとなっている。「幸い」なのは、「貧しく、今飢え、今泣き、憎まれて追い出され、ののしられて汚名を着せられている人々」である。しかし、この「あなたがた」はいつまでも惨めな状態に置かれはしない。

③ 神の支配(国)は「あなたがたのものである」。これは現在形の動詞であるから、すでに神の支配は始まっていると受け取ることもできる。しかし21節では「満足させられるだろう」とか「笑うだろう」というように、未来形が使われている。あなたがたに心からの笑いをもたらす神の支配は、まだ完成してはいない。だが、すでに始まっており、その完成は確実である。

④ 23節の「その日」は迫害を受けているその日を指しているだろう。迫害の最中であって、すでに喜ぶことができる。なぜなら、神の支配がすでに始まっており、天における報いも確実だからである。将来のその日を先取りするかのように、今もうすでに喜ぶことができる。そこで命令形「喜びなさい」「跳ねなさい」が使われる。

⑤ 幸いな (マカリオス)

⑥ 新約聖書では50回使われるが、そのうちルカで15回、マタイで13回、人に対するイエスの言葉に使われている。神に使われ、「祝福に満ちた」、人間に使われ、「幸いな」を意味する。

⑦ ユダヤ人から訴えられたパウロは、弁明の機会が与えられたことを「幸い」と述べ(使二六2)、またやもめは再婚しないほうが「幸福」とパウロは教えている(1コリ七40)。だが、新約聖書では、神がもたらす恵みや救いにあずかる人間の幸いを表し、しかも「幸いなるかな」

という祝福の呼びかけとなることが多い（ルカ6 20―22、マタ5 3―10）。

④ 不幸な人々（24―26節）

③ マタイの「山上の説教」には、「不幸」な人々への言葉はない。この世の立場が逆転し、金を持つていて「今」満たされ、「今」笑っている者が空腹になり、泣く日がそこに来ようとしている。この逆転を強調することにルカの関心がある。

④ 「ああ不幸」と訳した語（ウーアイ）は、苦痛や悲嘆を表す感嘆詞として「悲しいかな・ああ哀れだ」を意味する。この語は神の裁きを受けざるをえない人々に対する憐れみを表す。旧約聖書では、差し迫った神の怒りや裁きを述べる預言者の言葉に使われた（イザ一 4 など）。「ああ不幸」が呼びかけられる最初の三人を直訳から取り出すと、次のようになる。

あなたがたに 金持ちたちに

あなたがたに、今満たされている者たちは

今笑っている者たちは

最初の「ああ不幸」では「あなたがたに」も「金持ちたちに」も与格形であるが、二番目では「あなたがたに」は与格形だが、「満たされた者たち」は主格形に替えられ、三番目では「あなたがたに」が省かれ、主格形「笑っている者たち」だけになっている。

⑤ イエスの前に座って、その呼びかけに耳を傾ける弟子や民の一人ひとりの心には、神の支配に信頼し貧しく生きる「あなたがた」と、富に頼られて快適な生活を捨てきれない「あなたがた」とが共存している。富に頼ろうとする「あなたがた」を呼びかけから消すことによって、イエスは富に頼る生き方のはかなさを強調しようとしている。神の支配の前で、富とそれに基づく満足や笑い、もろくも崩れ去る。

⑥ 24節の「十分に受け取っている」は、商業用語であり、借金の返済を十分に受けてしまい、もはや負債者に何の要求も出来ないことを表す。金持ちは富を貧しい者に分けずに、自らの慰めに利用するから、神からの報いを期待できない。

⑦ 「富んでいる者」、「今満腹している者」、「今笑っている者」、「すべての人にほめられる者」が、「不幸だ」と言われる。これらの人々は、20―22節で「幸いだ」と呼びかけられた人々とは反対に、神の支配があまねく行きわたる終わりの日に、神の救いにあずかれないからである。今の状況に心を奪われ、真の幸いと喜びをもたらす神に心を閉ざしているがゆえに、イエスは彼らを「不幸だ」と言う。

⑤ 神の支配が人を幸いにする

⑧ 山の上で祈ったイエスは、十二人を使徒として選ぶと、山から下って、「平らな場所に」立つ。

イエスは「貧しい人は幸い」と語り始め、最後は「すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である」と結んでいる。現在の富や満腹や笑いとは人からのものであり、それを持つ者は不幸である。

⑨ 貧しさや苦しみが人を幸いにするのではない。貧しさや苦しみの中に働く神の支配が人を幸いにする。このことが確かな真理であるのは、イエス自身がこの神からの幸いを生き、励ましを語っているからである。